第20回研修会講演②

『大学ランキング』での評価が向上した東京学芸大学附属図書館の様々な取り組み

東京学芸大学附属図書館　堀池　尚明

1．東京学芸大学および附属図書館の概要

東京都小金井市にある東京学芸大学は、教員養成系の基幹大学として、「有為な教育者」の養成を基本理念に掲げている。平成20年５月１日現在、学生数は6,314名（内学部生5,081名）、教職員数は925名（内職員223名）となっている。

附属図書館は、本館のみで、地上３階地下１階の総面積が6,241㎡の建物となっている。蔵書数は平成20年３月31日現在877,210冊（内図書館配架：444,617冊）であり、江戸・明治期からの教科書を中心とした教育関係資料を精力的に収集している。

附属図書館の事務組織は、１部（学術情報部）２課（学術情報課・情報基盤課）制となっており、全職員数は33名（内非常勤11名）である。学術情報課には、総務係、図書情報係、雑誌情報係、利用者支援係、情報リテラシー係の５係が、情報基盤課には、情報基盤係、事務情報係、学術ポータル係の３係がある。また、附属図書館長は、副学長（情報等担当）も兼ねている。

2．『大学ランキング』について

『大学ランキング』（朝日新聞社）は、1994年から毎年発行されていて、各項目、分野ごとに大学をランキング付けしている。その中に「大学図書館ランキング」というものがあり、各大学図書館を、奉仕対象学生１人あたりの蔵書冊数、受入図書冊数、貸出数、図書館費についてそれぞれ指数化して順位付けしている。また、Ａランクになるには、「貸出冊数／学生」の数値に基づき、総合大学、非総合大学、医・歯・薬科大学の別に上位30％に入る必要がある。東京学芸大学附属図書館は年々ランキングを上げてきており、これは、本学附属図書館における図書館サービス向上のための様々な取り組みとも密接に関わっている。そこで、以下、本学附属図書館における図書館サービス向上のための取り組み事例を紹介していく。

3．学芸大図書館における様々な取り組み

①図書館職員による業務WG活動

平成20年度現在本学附属図書館には、貴重資料管理WG、図書館情報発信システムWG、図書館報編集委員会、情報処理授業支援WG、選書委員会、図書館サービス向上企画WG、資料集中・整備企画推進WG、絵本の森企画推進WG、主題情報サービス企画WG、教育系連携WG、施設・設備検討WGの、11の業務WG・委員会がある。

具体的なWG活動事例としては、情報処理授業支援WGによる全学一斉授業支援が挙げられる。これは、１年次必修科目「情報処理」の１コマを使い、計28クラス（約1200名）を対象に授業支援を行うものである。その他にも、貴重資料管理WG（展示サブグループ）による展示会の企画・開催、図書館サービス向上企画WGによる一般市民への貸出実現、選書委員会による学生選書ツアー実施、主題情報サービス企画WGによる教科書の探し方ツールの作成等の活動がある。

②学内外からの予算獲得の努力

学内からの予算獲得事例としては、電子ジャーナル経費の全学共通経費化（H17）、トップマネジメント経費による椅子の一部更新（H19）、学長裁量経費による浮世絵複製版の購入（H17～19）、学長裁量経費による往来物資料の購入（H20）、学内要求による図書館管理費増額（H20）が挙げられる。

学外からの予算獲得事例としては、科学研究費補助金（H17～19）により、国内有数のコレクションである往来物、明治初期教科書等を画像データ化し公開したことが挙げられる。また、NIIのCSI委託事業費により、機関リポジトリシステムの構築と、搭載するコンテンツの拡充を行ない、さらに、教育系サブジェクトリポジトリの基盤整備を進めてその正式公開に向けている。

③居心地のいい図書館を目指して

～施設・設備・環境の整備～

施設等の改修事例としては、天井アスベスト除去と空調・照明設備の改修（H18）、トイレの全面改修（H19）、閲覧椅子の一部更新（H19）、書庫電動式集密書架の修理・改造（H20）等が挙げられる。また、雑誌バックナンバーセンターの設立を目指して、旧書庫（別棟）の改修を行っているところである。

施設等の有効活用としては、館内整理日の廃止（H15）や、平日の開館時間を9：00から8：30への繰り上げ（H17）等により、開館日、開館時間の拡大を行なってきた。また、旧マイクロ資料室の開放（H17）、大学院生用閲覧室の開設（H18）等で、閲覧スペースの増設もしている。その他には、貸出カウンターとレファレンスデスクの統合（H17）をしてカウンター業務を一元化したり、エントランスホールで、ランチタイムコンサート（H18～）を行ったりしている。

4．おわりに：図書館サービスを向上させるには

貸出・返却、レファレンス、受入れ、目録等の日常業務は、図書館活動の根幹をなす大事な業務ではあるが、ただ単に日常業務をこなしているだけでは不十分である。“大学組織の一部である図書館としての役割は何か”を考え、大学の理念・目標に貢献していくことが重要である。